



<ul style="list-style-type: none"> ・ARMの命令セット互換である限り自由に設計できる ・CPUのマイクロアーキテクチャもプロセス技術も全て自由に選ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ARMの許容する範囲でカスタマイズが可能 ・RTLからレイアウトまでの設計は自由にできる ・ファウンドリとプロセス技術を自由に選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ARMの許容する範囲でカスタマイズが可能 ・RTLだけで設計するよりも迅速に最適化ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス技術に最適化された性能と電力 ・すぐに自社の設計に組み込むことができる
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロアーキテクチャから始めるために設計に長期間かかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・RTLの論理合成から始めるため、性能を上げるためにはプロセスへの最適化に時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファウンドリとプロセス技術は固定される 	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタマイズできない ・ファウンドリとプロセス技術は固定される

